

株主通信

第139期第3四半期報告

平成18年4月1日～平成18年12月31日

3rd Quarter Business Report

K“**K**”**LINE**
川崎汽船株式会社®

証券コード：9107

contents

- | | | |
|-------------------|-----------|---|
| | 2 | 株主の皆さまへ |
| 営業の概況 | 3 | 業績概況・事業別概況 |
| 特集 | 7 | 株主様アンケート集計結果 |
| TOPICS | 9 | 8000TEU積みコンテナ船“HUMBER BRIDGE”竣工
宝山鋼鉄とブラジル・豪州積み鉄鉱石輸送契約を締結
グループ企業行動憲章制定 |
| News Flash | 11 | 船員労働災害防止優良事業者認定の取得
海上保安庁との海賊対策官民連携訓練の実施
東京湾大規模排出油事故対応訓練について
“K” Line Maritime Academy (India) 設立 |
| PRの頁 | 6 | 川崎近海汽船株式会社 |
| | 13 | ケイライントラベル株式会社 |
| | 14 | ケイライン ロジスティックス 株式会社 |

株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第3四半期のご報告をお届けするにあたって、ひとことご挨拶申し上げます。

当第3四半期（平成18年4月1日から平成18年12月31日）は、好調な世界経済に支えられ、荷動きは堅調であり、加えて、経営計画“K”LINE Vision 2008⁺に基づく積極的な営業展開の結果、連結売上高は、前年同期を大幅に上回ることができました。しかし、燃料油価格の高止まりや、コンテナ運賃の低迷の影響を受け、営業利益、経常利益、純利益ともに前年同期を下回る結果となりました。

通期の業績につきましては、コンテナ船運賃の回復基調やドライバルク市況の堅調などから、小幅ながら前回予想からの改善を見込みました。

配当金につきましては、当初予定通り、期末配当金1株当たり9円、年間配当金18円の予定でございます。

尚、去る1月8日に発生した米国原潜と当社大型タンカー「最上川」の接触事故に際しましては、皆さまにご心配をお掛けしました。幸い限定的な損傷に止まり、当社損益への直接の影響はないものと見込んでおります。

平成19年2月

代表取締役 社長執行役員

前川 弘幸

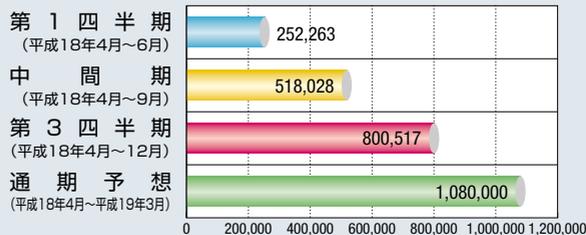


営業の概況

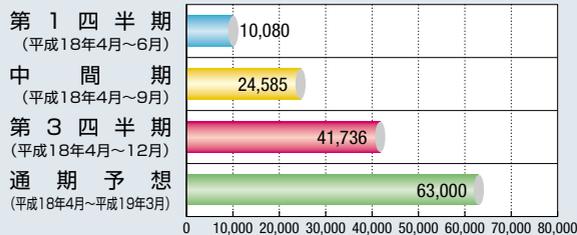
業績概況

(単位：百万円。単位未満切捨て)

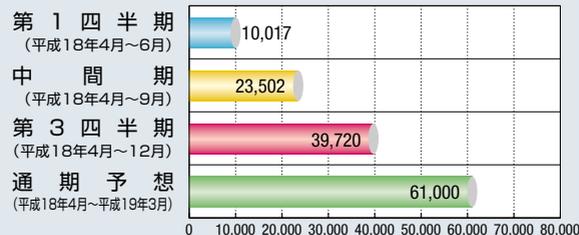
売上高



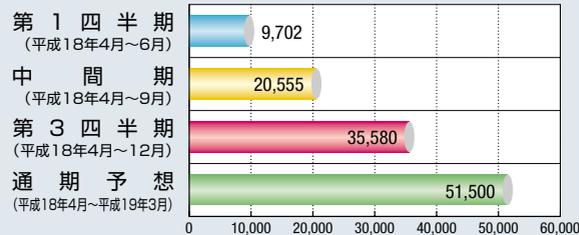
経常利益



営業利益



四半期純利益



当第3四半期において、わが国経済は好調な企業収益を背景にデフレから脱却を続けながら、安定成長を示しました。海外においても米国やアジア諸国の景気が概ね順調に推移し、欧州各国の経済も力強く推移しました。こうした世界経済の好調に支えられ世界の海上荷動きは堅調で、ドライバルク運賃市況は高水準で推移しました。

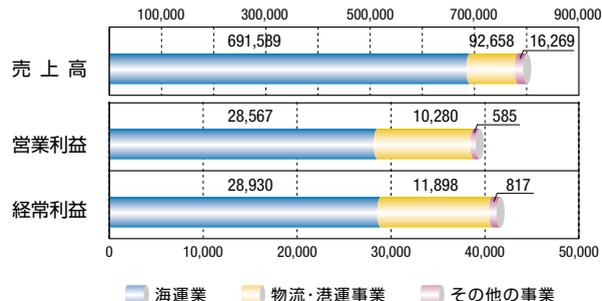
このような状況下、当社グループは経営計画“K”LINE Vision 2008⁺に基づき、積極的な営業を展開し、事業規模の拡大に取り組みました。その結果、当第3四半期の連結売上高は8,005億17百万円（前年同期比1,115億45百万円増加）となりました。しかしながら、燃料油価格の高止まりや、コンテナ船部門の運賃低迷などの影響を受け、営業利益は397億20百万円（前年同期比295億27百万円減少）、経常利益は417億36百万円（前年同期比277億75百万円減少）、純利益は355億80百万円（前年同期比

149億70百万円減少）となりました。

事業の種類別セグメントの業績概況は次のとおりです。

第3四半期 事業の種類別セグメント情報

(単位：百万円)



■ 事業別概況

海 運 業



コンテナ船部門

北米航路の荷動きは米国住宅市場の冷え込みによる影響が懸念されましたが、堅調な個人消費と設備投資に支えられ、2桁の伸びを示しました。欧州航路はEU主要国の好調な経済と、ロシア、東欧向け荷動きの大幅な増加に、ユーロ高が加わり同航路の荷動きは好調に推移しました。当社においては、7月より北米東岸サービスを1便増便、12月には当社初となるスエズ経由アジア・インドー北米東岸サービスを開始、また10月及び11月に当社コンテナ船最大船型となる8000TEU型新造船の第1船、第2船を欧州航路に投入するなど輸送力強化に努めました。

以上のように、好調な荷動きのもと輸送力の増強により積高は伸ばすことができましたが、燃料油価格の高止まりと欧州航路を中心とした運賃低迷が響き、増収減益となりました。



エネルギー資源輸送部門

液化天然ガス運搬船については、上半期に竣工した新造船1隻を含め合計31隻の船隊が順調に稼働し、安定的な収益を確保することができました。

油槽船については、世界的暖冬傾向により、石油製品運賃市況が軟化しましたが、効率的な配船に努め、安定的な収益を確保しました。

当部門全体では、増収増益となりました。

以上の結果、海運業部門全体では、売上高は6,915億89百万円（前年同期比16.0%増）、営業利益は285億67百万円（前年同期比52.7%減）となりました。



不定期専用船部門

ドライバルク輸送では、大型船市況は中国の鉄鉱石輸入量が約3,000万トン増加する等、堅調な船腹需要に支えられ、5月末を底に反発した後、前年同期を上回る高水準で推移しました。中小型船市況は中国のセメント輸出量が約1,000万トン増、鋼材輸出が約2,000万トン増となる等、堅調な荷動きに支えられ、同様に高水準で推移しました。電力炭・製紙原料輸送におきましては、専用船を中心に安定した収益を上げることができました。

自動車船については、北米市場での好調な省燃費車需要が続いていること、また欧州・中近東・アフリカ等をはじめとする各方面でも日本車・韓国車需要が旺盛なことから、極東からの海上輸送は堅調に推移しています。10月以降にも新たに3隻の新造船を船隊に加え輸送能力を増強した結果、輸送台数は14%の増加となりました。

このような市況の中、不定期専用船部門全体として増収増益となりました。



内航・フェリー部門

内航・フェリー部門は、国内経済の緩やかな回復基調により、安定した輸送量を維持しましたが、燃料油価格の高止まりで、厳しい業績となりました。

※注：増減は前年同期比

■ 事業別概況

物流・港運事業

荷況が海上・航空ともに比較的堅調に推移したこと、及びその結果、港湾関連事業会社の取扱貨物が増加したことが相俟って、セグメント全体では、売上高は926億58百万円（前年同期比16.9%増）、営業利益は102億80百万円（前年同期比33.2%増）となりました。



その他の事業

その他の事業においては、売上高は全体として162億69百万円（前年同期比20.3%増）、営業利益は5億85百万円（前年同期比38.2%減）となりました。



ご 報 告

米国原潜との接触事故について

本年1月8日、米国の原潜「ニューポート・ニューズ」と当社の大型タンカー「最上川」がアラビア海ホルムズ海峡南方で接触した事故では、株主の皆様を始め関係者の方々に多大なるご心配をお掛けしました。お陰様で双方とも乗組員は全員無事であり、タンカー、原潜の損傷は最小限に止まりました。当社で運航する大型タンカー（VLCC=Very Large Crude-oil Carrier）は全てダブルハル（二重船底）仕様で万が一の際にも環境汚染を最小限に防ぐ構造にしており今回もその効能が改めて実証されたと言えます。最上川は原油を荷揚げ後シンガポールにて修理を了えました。今回の事故による損害と関連費用については、保険求償等により当社損益への直接の影響はないものと見込んでおります。今後とも安全運航を最優先とし社会に貢献します。



"K" LINE KINKAI



ほくれん丸

生乳製品をデイリー配送、
ほくれん丸・第二ほくれん丸 釧路 ⇄ 日立

安いで快適な旅を提供します。

旅客フェリー 苫小牧 ⇄ 八戸

充実の1日4隻運航で、
さらに便利になりました。

- シルバーキーン
- フェリーはちのへ
- べにりあ
- べが



シルバーキーン

■ 運航スケジュール

八戸発	苫小牧着	苫小牧発	八戸着
08:45	15:45	05:00	13:30
13:00	22:00	09:30	18:00
17:30	01:30	21:15	04:15
22:00	06:30	24:00	09:30

川崎近海汽船株式会社

KAWASAKI KINKAI KISEN KAISHA, LTD.

東京都千代田区霞が関1丁目4番2号

<http://www.kawakin.co.jp>

・特集・ 株主様アンケート集計結果

8,974通のご回答ありがとうございました。

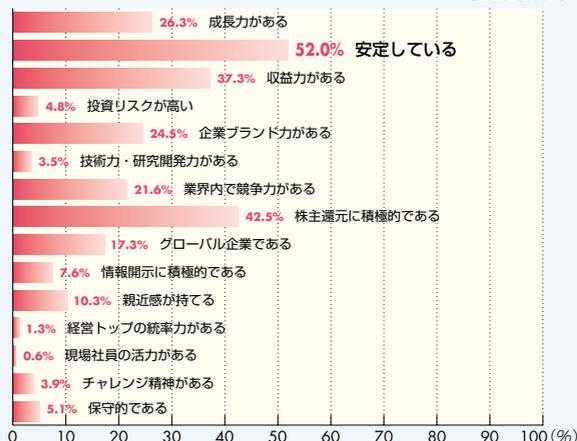
株主様よりご回答いただきましたアンケートの集計結果をご報告します。
皆様からの貴重なご意見を反映して、今後の株主通信をさらに充実してまいります。



【Webのみの回答】

Q 当社に対してどのようなイメージをお持ちかお聞かせください。

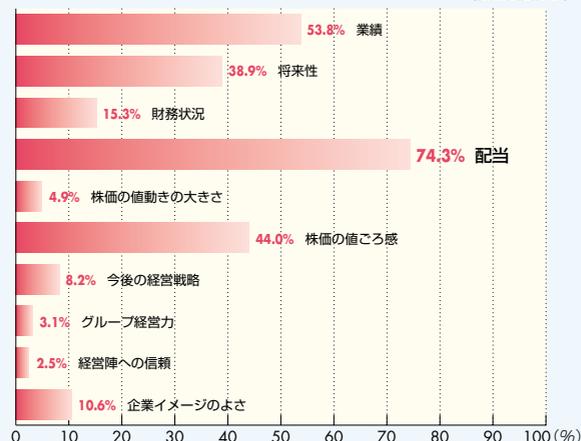
(複数回答あり)



【Webのみの回答】

Q 当社株式の購入ポイントをお聞かせください。

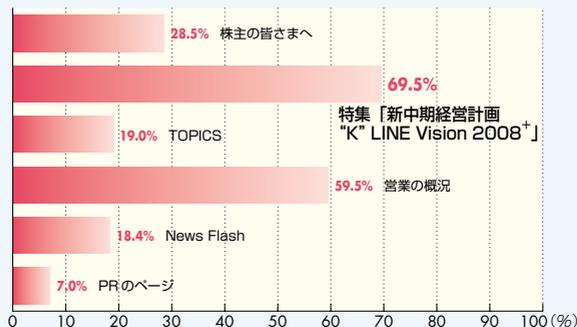
(複数回答あり)



【ハガキ回答】

Q 今回の株主通信で興味深かった記事をお選びください。

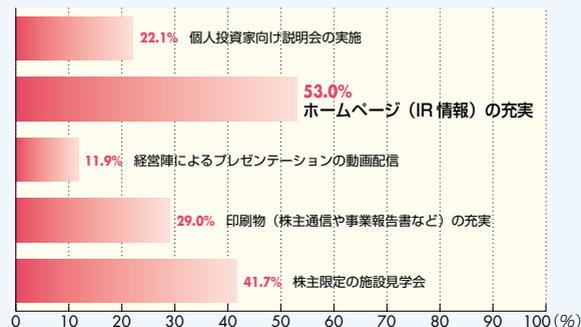
(複数回答あり)



【Webのみの回答】

Q 今後希望されるIR活動についてお聞かせください。

(複数回答あり)



Q 今後、株主通信で取り上げて欲しい内容や当社へのご意見を自由にお聞かせください。

- 日本は海に囲まれている島国なので海運業は決して衰えないと思う。御社の営業内容をどしどし紹介して発展してほしい。
- IRに積極的で非常に喜ばしい。新聞などへのIRも積極的に行って頂きたい。
- IR活動に積極的なのがよい。業績の好不調は景気の波の影響によるところ大なので、不調な時こそ株主通信で主張を。
- 身近なニュースに興味があります。近海のニュース 釧路-日立を生乳運搬しているなどよい記事と思います。
- 株価を見てまた買いたいと思いますので頑張ってください。一人ひとりが自信とプライドをもって仕事に励んでください。シルバーキーンに乗ってみたい。
- 企業の社会的責任についての考え方ややっていることは素晴らしい。この方面の記事を今後もお願いします。
- 個人投資家向けにアンケートを実施していただくことなどは、とても親近感を持つことが出来ます。ケイライントラベルがある事を知りました。格安船旅を期待。
- 全面的に文字が小さすぎます。老人達にも読みやすいようにしてほしい。
- CO₂の削減に世界で貢献していることに感銘しました。TVや新聞でもっとPRして欲しい。原油高で大変ですが、頑張ってください。
- コスト管理とリスク管理体制の強化を重点に。
- 安全運航を支える船舶管理体制について興味深く読みました。海事技術者の育成は重要と思います。
- 遵法精神・安全運航の下で増収・増益を図られたし。
- 他のライバル会社に比べてアピール力が弱い気がします。実力のある会社だと思うので、その点工夫して欲しいです。
- CSRを重視して下さい。

*その他、多数のご回答を頂きましたが、紙面の都合により割愛させていただきました。ご協力ありがとうございました。

当社グループ会社の川崎近海汽船(株)が運航している旅客フェリーとケイライントラベル(株)の旅行手配について、詳しく知りたいとのご要望を数多く頂戴しました。

株主優待は実施しておりませんが、それぞれの詳細のお問い合わせ・ご予約先をご案内申し上げます。

◎ ご予約・お問い合わせ先



【川崎近海汽船(株)旅客フェリー】

電 話 0120-539-468(コーサンキューシルバー)
ホームページ <http://www.silverferry.jp/>



【ケイライントラベル(株)旅行相談】

電 話 078-391-2711
ホームページ <http://www.klinetravel.co.jp/>

8000TEU積みコンテナ船 “HUMBER BRIDGE” 竣工

2006年10月31日、(株)IHIマリン・ユナイテッド呉工場（広島県呉市）にて日本で最大船型となる8000TEU積みコンテナ船“HUMBER BRIDGE”が竣工しました。本船は、当社が発注した8000TEU型コンテナ船8隻シリーズの第1船で、環境、安全面に配慮した新しい船体構造及び機器を採用しています。

この後、2番船は2006年11月、3番船／4番船は2007年前半、さらに5～8番船は2008年後半から2009年にかけて順次竣工し、アジア／欧州航路に就航する予定です。

主要寸法：	全長	約336.0メートル	載貨重量トン数	約87,000トン
	幅	約45.8メートル	コンテナ積個数	8,212 TEU
	深さ	約24.4メートル	航行速度	25.6ノット
	総トン数	約98,800トン		



“HUMBER BRIDGE”

宝山鋼鉄とブラジル・豪州積み 鉄鉱石輸送契約を締結

2006年10月に前川社長、鈴木副社長が訪中し、中国最大の鉄鋼会社である宝山鋼鉄股份有限公司（中国上海市）徐 楽江（Xu Lejiang） 董事長、艾 宝俊（Ai Baojun） 総経理の出席の下、同社との大型撒積船による鉄鉱石長期輸送契約の調印式を執り行いました。

当社は、宝山鋼鉄向けに既に10年以上の輸送実績がありますが、今回の契約が初の長期契約となります。2006年開始の契約には18.5万トン型の新造船を、2008年開始の契約には20万トン型新造船をそれぞれ投入する予定です。

当社は、経営計画“K”LINE Vision 2008+の中で、成長著しい中国市場への取組みを最重要課題の一つとして位置づけており、今後も中国市場における鉄鋼原料輸送ビジネスに積極的に取り組んでいきます。



<契約概要>

	ブラジル積み	豪州積み
開始時期	06年第4四半期	08年後半
期間	約3年間	10年間
年間輸送量	約50万トン	約240万トン
使用船腹	18.5万トン型新造船	20万トン型新造船

 グループ企業行動憲章を2006年12月に制定しました。 

当社グループは、人権の尊重及び法令等の遵守が事業活動の基本であること、並びに企業の発展は社会と共にあることを認識し、以下の原則に従って行動することを宣言する。

1. 人権の尊重

国の内外を問わず人権を尊重すると共に、グループ従業員の人格、個性および多様性を尊重し、安全で働きやすい職場環境の整備・向上を図り、ゆとりと豊かさを実現する。

2. 企業倫理の遵守

法令や国際ルールを遵守し、公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行う。

3. 信頼される企業グループ

船舶の安全運航をはじめとして、安全かつ有用なサービスを提供し、顧客と社会の満足と信頼を得る。

4. 環境問題への積極的取組み

環境問題への取組みは人類共通の課題であり、企業の活動と存続に必須の要件であることを強く認識し、環境の保全のために自主的、積極的に取り組む。

5. 情報の開示と社会とのコミュニケーション

事業と個人に係る情報を適切に管理し、企業情報を適時・適切に開示し、株主はじめ広く社会と双方向のコミュニケーションを図る。

6. 社会貢献活動への取組み

良き企業市民として、社会貢献活動に積極的に取り組むと共に、グループ従業員の社会貢献活動を支援する。

7. 国際社会との調和

国際的な事業展開に際しては、関係各国の文化や慣習を尊重し、国際社会の発展に貢献する。

8. 反社会勢力との対決

社会秩序や市民の安全を脅かす反社会的勢力及び団体とは断固たる態度をもって対決する。

グループ各社の経営者は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内に徹底し、その実現のために実効ある社内体制を整備すると共に、取引先等にも周知を図る。本憲章に反するような事態が発生したときには、経営者自らが問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努めると共に、迅速かつ的確に情報を公開する。

以 上

船員労働災害防止優良事業者認定の取得

2006年12月、船員労働災害防止優良事業者認定制度に基づく優良事業者としての認定を受けました。この制度は、船員の労働災害防止に必要な自主的取組みの促進、安全衛生意識の向上を図ることを目的とし、国土交通省により新たに創設されたものです。今回が第一回の認定であり、外航船社では当社を含む2社が認定を受けました。

当社グループ管理船各船では、毎月一回『安全衛生デー』を設定し、安全設備の点検、安全衛生教育等を積極的に実施しています。特に指差し呼称、危険予知トレーニングによるヒューマンエラー防止のための活動を、日本、フィリピンを始めとする各研修拠点や船内で実践指導を行うなど、グループ全体に展開しています。

安全運航に向けて、運航船の労働環境の改善や、安全衛生教育等、ソフト・ハードの両面から質の向上を図り、事故の未然防止に取り組んでいきます。



船内の安全衛生ミーティングの危険予知トレーニングで指差し呼称をする乗組員

海上保安庁との海賊対策官民連携訓練の実施



LNGタンカー「ゼクリート」

2006年11月28日、当社所有LNGタンカー「ゼクリート」（総トン数：111,124トン）がインド洋（公海上）において海賊の襲撃を受けたことを想定し、海上保安庁、

インド洋上をしよう戒中の巡視船「しきしま」、国土交通省海事局外航課、及び（社）日本船主協会と共に海賊対策官民連携訓練を実施しました。

訓練は、本船の船舶警報通報装置から通報を発した後、海上保安庁「海賊対策室」と当社「緊急対応チーム」による連絡体制の確立、関係機関との情報交換・対応の確認、両船上における現場対応演習を実施する内容であり、この訓練により、当社の緊急対応マニュアル、本船での船舶保安計画に基づく対応、及び官民での緊急対応と連絡体制の再確認を行い、当社における緊急対応体制の強化を図ることができました。



巡視船「しきしま」

東京湾大規模排出油事故対応訓練について

2006年12月4日及び8日の両日、第三管区海上保安部、東京湾各地区排出油防除協議会、及び(社)日本船主協会とともに、平成18年度の東京湾大規模排出油事故対応訓練に参加しました。

今年度の訓練は、当社所有「撒積貨物船A号（総トン数：30,000トン）」が東京湾千葉沖を南航中に内航小型船と衝突、A号の船体に破口が生じ燃料油が流出したことを想定したもので、当社は船主、船舶管理会社として、当社の緊急対応マニュアルの有効性、並びに官民での緊急対応と連絡体制について再確認を行いました。

また、この機会を捉え、関係機関との連携による継続的な事故情報の伝達、油防除方針の策定・油防除資機材の動員手続きや各所活動の調整等、排出油防除対応全般について訓練を実施し、万一の事故に備えた対応体制の充実に努めました。



事故対応訓練の様子

“K” Line Maritime Academy (India) 設立



インド研修センターに導入予定の操船シミュレータ

当社は、支配船職員（士官船員）の約4分の1を占めるインド人船員の教育訓練を目的として、新研修施設“K” Line Maritime Academy (India) を、インド国ムンバイ市に設立します。

これは、当社の事業規模の計画的拡大と安全運航を支える船舶管理体制を確立するために2006年5月に策定した、『川崎汽船の安全運航を支える船舶管理体制』の柱の一つである“K” Line Maritime Academy (KLMA) 構想に基づくもので、2007年6月に開所する予定です。

新研修施設は、年間約500人のインド人研修生を受け入れる計画で、衝突事故や座礁事故など、環境汚染につながる恐れのある重大事故を撲滅するための操船シミュレータ訓練、また、石油/LPG/LNGなど危険貨物の安全な取り扱いを徹底するための荷役シミュレータ訓練、さらに、主機操縦装置のトラブル原因を発見し迅速な処置を行うための主機操縦装置シミュレータ訓練や、冷凍コンテナ実機訓練など実際の訓練を充実させ、当社の安全運航をさらにレベルアップしていきます。

We promise your comfortable world trip. ✈

ケイライントラベル株式会社

- 全世界への出張をトータルにバックアップ
- 日本でシェアトップクラスのキルトツアー
- ホームステイや世界のイベントへの渡航手配

Business Trip
Consulting

◆ビジネストラベル・出張関連
業務をトータルにサポート

- ◆キルトツアー
- ◆中国ビジネスツアー
- ◆広告業界関連ツアー
- ◆ホームステイ

Group Tour etc.

System Solution

◆ビジネストラベル/
システムソリューション



K "K" LINE TRAVEL
ケイライントラベル株式会社

本社・東京 旅客部 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビル1F
TEL:03-3506-3466
神戸 営業所 〒650-0024 神戸市中央区海岸通八番 神港ビル1F
TEL:078-391-1701
大阪 営業所 〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-2-1 大同生命本社ビルB1F
TEL:06-6443-8777
岐阜 営業所 〒509-0147 岐阜県各務原市鷺沼川崎町2丁目58番地 カワサキライフ岐阜第二ビル
TEL:058-382-4571
名古屋 営業所 〒454-0011 名古屋市中川区山王3-17-7 **【新規オープン】**
TEL:052-322-5440

<http://www.klinetravel.co.jp/> <http://www.quilters-shop.com>

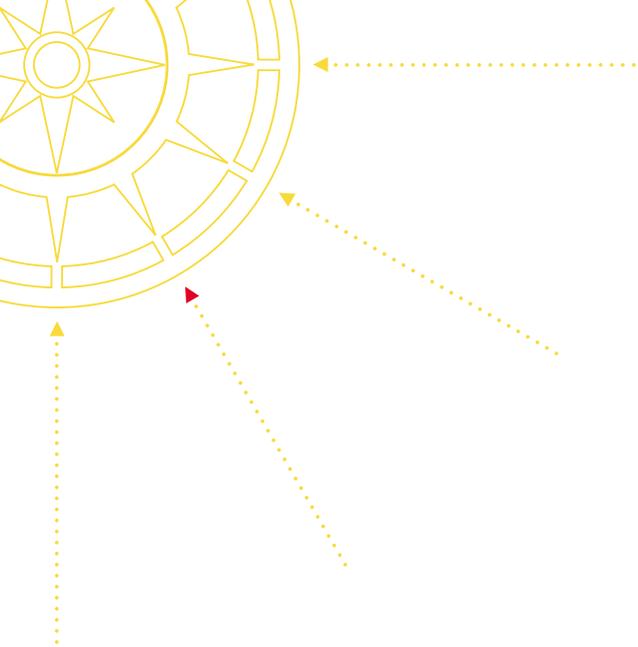


Think Ahead,
Think KLL

ケイライン ロジスティックス 株式会社

原木本社・芝浦営業本部・成田ロジスティックスセンター・名古屋支店・阪神支店

〒272-0004 千葉県市川市原木2526-34 TEL(047)328-7830 FAX(047)328-7831



IRメール配信サービスのご案内

当社では、情報提供をさらに充実させるため「IRメール配信サービス」を開始しました。プレスリリース、決算発表日のお知らせ、決算概要などを自動的に電子メールでお届けします。ぜひご利用ください。

サービスのご登録は <https://www.kline.co.jp/sec/mlist/index.asp>

(注) この株主通信に記載されている将来の業績等に関する見通しについては、リスクや不確定な要因を含んでおり、実際の業績はさまざまな要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。



〒105-8421 東京都港区西新橋一丁目2番9号
(日比谷セントラルビル)

TEL : 03-3595-5061

URL : <http://www.kline.co.jp>



本誌は100%再生紙、大豆油インキを使用しています。
当社は未来の子供たちのために、資源の再利用と環境保全に取り組んでいます。